

「日本写真保存センター」調査活動報告(6)

なぜ写真原板を残そうとするのか:「日本写真保存センター」設立への期待 松本 徳彦
(専務理事、日本写真保存センター設立推進連盟事務局長)

新聞、テレビや出版物で“戦後60年……”といった歴史を振り返る内容の番組や記事があると、決まってその時々の事象をとらえた写真や映像が登場する。そこには民衆がどのような暮らしをしていたか、どんな事件や出来事があったのか、といったことが克明に写し出されている。写真や映像にはそうした折々の出来事を記録し、時を経て再利用することができる優れた機能がある。しかし、その撮影した写真原板(フィルム)などの管理・保存が適切でないと役立たなくなることも分かってきた。

これまでそうしたフィルムは撮影者のもとで管理されていたが、時とともに記録した当事者の写真家も年老いたり、物故された方が増えている。そのため歴史的文化的に利用価値の高い写真であっても、必要とする写真がすぐに選り出せないで困っておられるのを目の当たりにすることが多くなった。なかでも物故された写真家の遺したフィルムは、遺族ではなかなか探し出すことができず、再利用されないままになっている。さらに、膨大な量のフィルムを保管する場所もなく、やむなく廃棄処分されてしまったものも多い。さらに保存状態も問題になっている。高温多湿のわが国ではフィルムを長期に保存する環境が整っていないことから、フィルムの劣化が進んで廃棄の憂き目にある。

これまでの流れ

こうした状況を憂い、劣化や散逸を未然に防ごうと立ち上がったのが日本写真家協会で、平成18年3月「日本写真保存センター」設立推進連盟(代表森山真弓)を組織し、時代を色濃く記録した写真原板(フィルム)を収集、保存し、様々なメディアでの利活用に使われるような「写真保存センター(アーカイブ)」の設立を同年5月、文化庁に要望した。

要望に対し文化庁は平成19年度から「我が国の写真フィルムの保存・活用に関する調査研究」のための調査費を計上し、①写真原板の保存状況。②写真原板の収集基準、保存方法。③写真原板の保存・活用に關する権利処理や利活用方法。④官民の役割等についての調査研究を当協会に委嘱した。

調査にあたっては、学術・教育関係者並びに美術館学芸員、法律家、マスコミ関係者などの専門家による諮問委員、調査員などで構成する委員会を立ち上げ実施した。調査員が2~3人のチームで遺族の元を訪ね、保管場所、保管箱の材質、ネガフォルダーの種類、ネガ台帳の記載状況などの確認をきめ細かく行った。平成19年度は26人、約52,180本のモノクロフィルムを調査した。20年度は20人、約37,300

本と約455,000枚の中大判のフィルムを扱った。

そこで問題となったのが、フィルムの加水分解によるビネガーシンドロームであった。

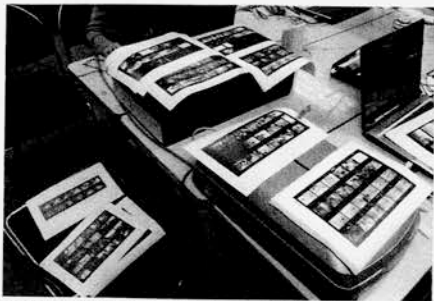
ビネガーシンドロームは高温多湿の密閉された環境のもとで起こるフィルムの劣化現象で、はじめに酢酸臭を発生し、次第にべとつき(粘稠)が起き、白い粉(結晶状)の析出、波打ちやワカメ状の収縮等の症状が表れる。さらに劣化が進むと、フィルムベースの柔軟性がなくなり、ごわごわした感じ(脆化)になる。乳剤膜の剥離やひび割れ、画像の崩れ、フィルムベース自体が粉々に崩壊してしまったものも僅かではあるがあった。こうした酢酸臭が出始めたフィルムの劣化を完全に止めることは困難で、できるだけ早いうちに見つけ出して、デューブカスキャンングをして複製を作って残すしかない。このビネガーシンドロームについてJPSニュースや会報で記事にしたところ、何人もの現役の写真家から問い合わせが起り、わが国における常温常湿でのフィルム保存の難しさが改めて認識されることになり、フィルム保存の大切さが問われることになった。

データ作りのシミュレーション

平成21年度は調査したフィルムをどのように収集保存し、データベースを作るかのシミュレーションに着手した。サンプル調査といえども相当な量の写真原板のすべてをスキャンングすることの大変さ、時間と経費、利活用の頻度等を勘案し、すべてをスキャンングするのではなく、写真集などで写真家自身が選択して公表してきた写真を中心に作業を行うことにした。しかし、データベース(ネガ台帳)を作るとなると、個々のフィルムの保存状態の善し悪しから、利用可能なフィルムであるかどうかの判定、画像をどの程



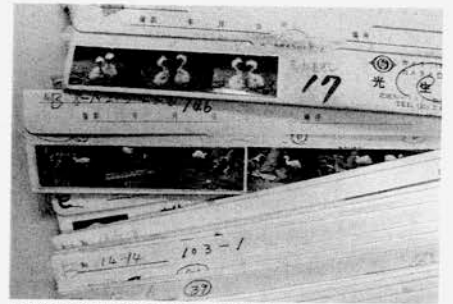
調査作業は大学院で写真保存を専攻したスタッフで行っている。



スキニングしたフィルムのコンタクトプリント。



川上重治さんのビネガーシンドロームが発生した密閉されたフィルム群。



田中徳太郎さんのネガフォルダーにはコンタクトが貼られている。

度のサイズでスキニングするか、高密度のものか、モニター等で検索ができる程度のものにするかについても検討し、データを保存するハードディスクの負担を抑えた400dpi程度の軽いデータで入力し検索できる方法をとった。この方法は経済的で作業効率も高く、膨大なデータを処理するのに適していると判断した。しかし、利用方法によってはより高精細なものが要求される場合は、改めて写真原板から制作することにした。また、画像の保存方法はスキニングデータだけでなく、キャピネ程度のプリントにしての保存方法の両面を予定していたが、費用対効果を検討し、現在は比較的メモリー量の小さいピクセルによるJPEGでスキニングし、写真原板の台帳作りも他の機器とのデータの互換性を考慮してファイルメーカーで行っている。

この作業をするためにJCIIビルの3階会議室を8ヶ月間借り受け、日大芸術学部大学院修士課程を修了した3人のスタッフと、慶應義塾大を卒業し、都写美のインターンを修了したアメリカ人研究者を交えた4人のチームで調査作業を行っている。また、作業をするための機器については、文化庁の調査研究費が使えないため、コンピュータ2台、スキャナー2台、レーザープリンター一式を、協会が積み立てている基金や多くの写真愛好者から募金していただいた基金で購入し作業を進めている。

フォーカス293』（1983年刊）6×6判506枚から270齣、川上重治『生の証人たち』（1970年刊）35mm1,405本から270齣、大東元『軌跡』（1996年刊）438本から78齣、川嶋浩『未来誕生』（1960年刊）35mm292本から101齣、野上透『文士一瞬』（2006年刊）の使用ネガのみを整理したフォルダー15本から89齣、竹内廣光『演出家、女の園の中で』（1978年刊）2,760本、名取洋之助『NIPPON』（戦前刊行）ほか約3,100本。などの写真集に使用された写真ネガの照合と台帳（簡易なデータベース）作りをした。

ここで調査作業が難航したのが、写真家の撮影したフィルムにデータが完備していなかったことである。ネガフォルダーに撮影日時、場所、テーマ、整理番号などが未記入のもの、写真集に掲載された写真のフィルムの所在が不明なものなどが多すぎたことで、使用されたフィルムの照合に時間をとられた。現在ははまだサンプル調査であるが、これが本格的な利活用を目的としたアーカイブ作りとなると、調査そのものに多大な時間と費用がかかることが分かった。このことは設立後の諸経費を考える上で参考になった。

今後の展開

私たちが写真の保存を望んでいる国立近代美術館のフィルムセンター相模原分館の収蔵庫の増築については、麻生内閣の平成21年度補正予算で設立の見通しが見えたが、夏の衆院選挙で政権交代がおき鳩山内閣が誕生した。新内閣では各省庁の無駄を省く方法として、事業仕分けが行われさまざまな事業が凍結あるいは廃止されるといった事態が起こった。この増築も一時はどのようになるのか危ぶまれた。相模原にある国立近代美術館の分館フィルムセンターの収蔵庫の増築は、必要とのことで予算化が行われることになった。平成22年度の調査研究費は昨年度とほぼ同額が計上されているとのことで、公開入札によって委託

先が決まることになっている。いましばらく様子を見守ることにしている。ともかく調査活動の継続が行われるとのことで、時間はかかるが設立の見通しに一縷の望みを託して、実現に向けての活動に努力したい。こうした状況を写真業界の人たちに認識していただき、「写真保存センター」設立の運動に参加して、みんなの声を政府や関係機関に届けていただきたい。

写真原稿調査データベース・高本台帳		日大写真保存センター	
写真家名 大東元	受付番号 大東元00216		
写真家名ローマ字 Gen Oshida	作業番号 中川尚志, 野田浩正, 野田弘典		
撮影年月日 1955/9/4	スキャン年月日 2009年7月1日～2009年7月31日		
受付年月日 2009/1/6/30	整理番号 未		
受付番号 松本浩彦			
撮影機・撮影内容 明治神宮, 芝罘, 横濱, 鳥居, 糸屋, 糸口 知瓶, 日本橋, 芝罘	ネガカメラ撮影内容 写真家による記録 2048i, 2048, 2048, 2048, 2048, 2048, 2048 1: [21] [22] [23] [24] [25] [26] [27] [28] [29] [30] [31] [32] [33] [34] [35] [36] [37] [38] [39] [40] [41] [42] [43] [44] [45] [46] [47] [48] [49] [50] [51] [52] [53] [54] [55] [56] [57] [58] [59] [60]		
センターでの撮影結果 時刻表 p.37 (明治神宮台) p.118 (ヤムホール) p.31とp.32の台帳	①29mm, 73/100, 35mm, F2, ニコン N 425mm, XX, D76, 18-20分, 42, 44, 40		
上 糸屋, 糸口 下 糸屋, 糸口	撮影機材 東京, せま木, 明治神宮		
掲載媒体 1996, 大東元, 『軌跡』, 『大東元の世界』, 東京, 平凡社, 『写真家』	コマ数 9		
ネガカメラ-開発物 無し	複製媒体-タイプ 撮影 深澤 複製媒体 p.31とp.32の台帳		
ネガ枚数 袋状, 使用コママッピング-シートに付録2枚あり, 長く押し、縦向き (画像には影響無し)	複製サイズ 35mm 複製フィルム情報 (レフォレーション記録付) E2798, 2799, 2800, 2801, 白黒, 複製フィルム製造会社 S22M		
	複製公開時期 未		

大東元さんの調査原票と合成して発表された写真

